

備前市事務事業評価表

事業の概要		コード	02-02-07-09
事務事業名	吉永病院運営事業	根拠法令・要綱等	医療法・備前市国民健康保険病院条例
事業開始年度	平成17年～	問合せ先	市立吉永病院 事務部
総合計画	大項目 基本目標	担当課(室)	市立吉永病院 事務部
	中項目 基本施策	職・氏名	庶務係長 万波文雄
	小項目 施策	電話	(0869)84-2120

事業の実施	
対象(誰・何に対して)	出資者である市民
目的(何のために)	市立吉永病院の基本理念に基づき、安心・安全で地域に開かれた医療の提供と計画的・効率的な病院経営の推進等を図るため
行政活動(どのような方法で)	院内会議(幹事会議)や各種委員会を開催し、病院の経営方針をはじめ、院内の安全の確保や、患者サービスの向上を図るための方法を検討し、改善実施する
事業の意図する成果(どのような状態にしたいのか)	患者さんに親しまれ、信頼され、必要とされる病院となる。

事業の実績					
活動実績	実施項目	単位	平成17年度実績	平成18年度実績	平成19年度実績
	院内会議	回	12	12	12
	褥創対策委員会(9人)	人	12	12	12
	給食委員会(8人)	人	12	12	12
	医療安全管理委員会(13人)	人	12	12	12
	感染防止委員会(18人)	人	12	12	12
	事業費	千円			
	直接事業費		20,256	30,600	63,011
	人件費		33,510	45,665	49,332
	事業費計		53,766	76,265	112,343
財源	千円				
国県支出金		284	284	284	
受益者負担					
市					
その他収益的収入		53,482	75,981	112,059	
必要人員	人	3.20	4.75	5.00	
結果指標名	単位	平成17年度実績	平成18年度実績		
院内会議	説明	会議出席者延人数			
結果指標	結果指標量	175	198	210	
	対前年比	-	113.1%	106.1%	
	活動コスト	3,255,000	3,861,000	4,124,137	
	単位当たりコスト	18,600	19,500	19,638	
各種委員会	説明	会議出席者延人数			
結果指標	結果指標量	453	589	590	
	対前年比	-	130.0%	100.2%	
	活動コスト	8,425,800	11,485,500	11,586,863	
	単位当たりコスト	18,600	19,500	19,638	

事業の成果			
成果指標名	決算における純利益	式又は説明	収益的収入 - 収益的支出
	17年度	18年度	19年度
成果指標量	154,614.00	12,856.00	357,962
対前年比		8.31%	-2784.40%
到達目標値	0以上	到達目標年度	毎年

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

(平成19年度事業)

事務事業の評価		妥当性評価<A-E>	A
目的	開法令等で目的が定められており妥当である(法律・政省令)	課題認識	毎年の市民意識調査において、病院事業は重要度が高いと評価されている。安全で質の高い医療、介護サービスを提供し、市民から信頼され、必要とされる病院となるよう更に努力する必要がある。
	現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である		
	事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている		
	事業開始当初の目的から変化している		
対象	対象を見直す必要がある	効率性評価<A-E>	B
	事業の目的を達成するためには、現在の行政活動以外に方法はない		
	現在の市を取り巻く環境からも事業の意図する成果を見直す必要はない		
行政活動	市民、団体などから要望・要請の強い事業である	課題認識	今年度は旧病院取り壊しに伴う特別損失が事業費を押し上げた。医療法改正のたびに、経営環境は悪化しており、コスト削減に真摯に取り組む必要がある。職員全員がコスト意識を強く持って業務にあたることが重要になってきている。
	本市が関与しなければならない事業である		
	事業を取り止めた場合の市民への影響は大きい		
市の関与	事業を取り止めた場合の市民への影響は克服できる範囲内である	有効性評価<A-E>	C
	コスト削減の努力をしており、低減余地は大きい		
	コスト削減の努力はしているが、低減余地は小さい		
コスト	サービスを低下させずにコストを低減することは困難	課題認識	旧病院取り壊しに伴う特別損失の影響で赤字となり、目標を達成できなかった。入院・外来部門は成熟状態であり、収入増はあまり期待できない。コストを削減する一方、健診部門で収入増を図り、健全経営を回復させる。
	受益者負担額を見直す余地がある		
	サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない		
効率性の評価	最適な手段を求めて職場内で改善に努めている	課題認識	今年度は旧病院取り壊しに伴う特別損失の影響で赤字となり、目標を達成できなかった。入院・外来部門は成熟状態であり、収入増はあまり期待できない。コストを削減する一方、健診部門で収入増を図り、健全経営を回復させる。
	現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある		
	事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている		
職場	事業に関するOJT(職場研修)は行われている	課題認識	今年度は旧病院取り壊しに伴う特別損失の影響で赤字となり、目標を達成できなかった。入院・外来部門は成熟状態であり、収入増はあまり期待できない。コストを削減する一方、健診部門で収入増を図り、健全経営を回復させる。
	事業実施について、職員の意見・要望が反映されやすい		
	事業に関するOJT(職場研修)は行われている		
目的達成度	成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである	課題認識	今年度は旧病院取り壊しに伴う特別損失の影響で赤字となり、目標を達成できなかった。入院・外来部門は成熟状態であり、収入増はあまり期待できない。コストを削減する一方、健診部門で収入増を図り、健全経営を回復させる。
	成果指標は前年度より向上している		
	成果は向上しており今後も向上する見込みである		
成果向上の可能性	今後、成果指標は向上する余地がある	課題認識	今年度は旧病院取り壊しに伴う特別損失の影響で赤字となり、目標を達成できなかった。入院・外来部門は成熟状態であり、収入増はあまり期待できない。コストを削減する一方、健診部門で収入増を図り、健全経営を回復させる。
	事業について積極的に情報提供している		
	事業実施等で積極的に市民意見を反映している		
市民参画度	事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している	課題認識	今年度は旧病院取り壊しに伴う特別損失の影響で赤字となり、目標を達成できなかった。入院・外来部門は成熟状態であり、収入増はあまり期待できない。コストを削減する一方、健診部門で収入増を図り、健全経営を回復させる。
	事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている		
	事業の実施等について、職員の意見・要望が反映されやすい		

平成20年度の状況		説明	19年度のように多額の特別損失は本年度にないが、旧病院取り壊し工事が20年度へ一部繰越しとなったことと、オーダーリングシステム導入に多額の投資を行うため、赤字回復は厳しい見込みである。
<input type="checkbox"/> 重点化している	<input type="checkbox"/> 休止している		
<input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合している		
<input type="checkbox"/> 見直し継続している	<input type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了		
<input type="checkbox"/> 事業を縮小している			
目標値	結果指標量	215	595
結果指標量	成果指標量		1,000,000.00

総合評価		評価区分<A-E>	C	
今年度は旧病院の取り壊しに伴う特別損失があり、28年ぶりの赤字となった。繰入金金の減額、医療法の改正による収入減、新病院起債の償還の開始等、当院の病院経営を取り巻く環境は厳しさを増している。経営健全化にむけた対策が必要となってくる。				

平成21年度以降の方向性		説明	平成20年度で廃止・完了
<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する)	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する		
<input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する	<input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する		
<input type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する		

平成21年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果